□はリンク　　※はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名　シーサイドリビング沙美　※

日付　平成　20年　2月　4日

評価機関名　特定非営利活動法人 ライフサポート

評価調査員　在宅介護経験15年

評価調査員　介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）※

1．評価結果の概要

講評

全体を通して（特に良いと思われる点など）

平成17年5月に設立したこのホームを今年の12月に3回目の訪問調査をさせていただいて報告書を書いていて思う事は、グループホームという生活の場に認知症になってしまった9人の集団が居て、そこに10人前後の職員が関わっている人間集団の行動について改めて再認識した。認知症ケアの基本は、認知症になってしまった人と認知症になっていない人との間での感性によるコミュニケーションができることではないかと私自身は思っている。つまり、人間のコミュニケーションは普通言葉に頼っているが、本当は言葉なき気持ちの伝達を相手が感じ取れるかどうかだろうと思う。

第1回目の訪問は、平成18年2月頃で、ホームも立ちあがったばかりで未完成な時であった。私達評価機関としても未熟の中でホームを見せてもらい、見たままの報告書を書いている。第2回目は平成19年2月で設立2年足らずの時、ホームは新しく安定に向けて出発しつつある時だった。施設長が就任して一つの方向性をつかんだ時だったと思う。そして今回の訪問調査で、代表者や同じ施設長から現在の状況をこんな言葉で説明してくれた。「職員が安定している。それで想定外の事故がなくなった。今は職員たちには“五感”を育てようと伝えている。利用者の変化を観る“目”、利用者や家族の考えを聴く“耳”、利用者に親身に接する“姿勢”を大切にするサービスを提供したいと考えている」そして「利用者の認知症レベルが良好な方向に改善ができて、要介護認定が下りるかどうか心配している」「職員の質の向上は、利用者に目が届き、落ち着きを見せる。職員からも利用者を良くしていこう」と。家族からは「うちのお母さんの表情が良くなった」「シーサイドに行けば何とかしてくれる」とケアマネージャーからも声がかかる。学校の先生からも「学校の利用について相談に乗ってくれたり、学校を開放してくれ、催しのビラを学校に配らせてくれるようになった。同様に地域も認めてくれるようになった」等、心の通いが目につく。このホームが、本当の人間関係の集団となって本領を発揮し出したと実感できるようになった。認知症になった人の人間回復ができるのは、今の所グループホームの職員達、介護職の貴重な仕事あってのみ実現出来ると再認識していきたい。

特に改善の余地があると思われる点

家族会もあり、年末大掃除には家族も手伝いに来る等、上手に家族をホームに呼び込んだり、夏祭りも上手く活用して地域行事として恒例化させていた。どのホームも課題とする地域や家族との交流が元々出来ていたのに加えて、今年度は運営推進会議を通じて、更にその絆を強め、どんどん拡大している。運営推進会議実施に際し、ホームは出席者に毎回資料や情報を満載した冊子を配布している。回を重ねる度に、出席者がホームに対する理解を深めていくのも納得できる。実際の会議は談笑を交えた気さくな内容だと聞いた。地域に信頼され、受け入れられているホームへの期待は大きい。他のホームへの模範を示してもらいたい。

２．評価結果（詳細）

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	

記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か
記述回答	1．　自主評価について･･･　理念は成文化されていて事務所に掲示し、ミーティング等でその具現化について話し合っているので改善事項はない。 2．　全体的に見て･･･　『家族が安心してもらえる施設、利用者に喜んでもらえる施設、地域に有用な施設』が理念であるが、スローガンとしては「平穏無事」である。これを具現化していくために年々目標を掲げ、職員と一緒に考え、毎日のケアに生かすようにしている。施設長は職員に「一日に一回は笑って過ごしてもらう。楽しい思いで過ごしてもらう」ことを利用者一人ひとりにそれぞれに合ったきっかけを投げかけようとしている。利用者の行動と表情を見ていると、どんな症状になった人でも、笑顔や楽しそうな様子が伺える。

Ⅱ 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	

記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か
記述回答	1．　自主評価について･･･　グループホームの建設から代表者の思いが浸透しているので、今さら改善するところはない。 2．　全体的に見て･･･　このホームの空間づくりのポイントは、ハード面では“ゆとり（広さ）と心地良さ（自然な木材）”であり、ソフト面は“利用者と職員の人間関係づくりと木材と人間の機能調和”だろうと思う。 　このホームの内装は、無垢の木材をふんだんに使っており、視覚的には生き櫛や木目が落ち着きを誘い、感覚的に安定感を与えている。機能面では、木材の吸湿性などの調湿機能や防虫、防疫など衛生機能を十分に発揮できる空間づくりである。 　最も大切なことは、利用者9人で暮らす喜びが生活空間を形成していることである。

Ⅲ ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者･家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り･情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法･盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

Ⅲ ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見･対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	

記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か
記述回答	1．　自主評価について･･･　介護計画作成プロセスと記録の方法は十分工夫して分かり易いものになっているが、利用者の仕草や言葉から本人の情報として捉えていけるよう職員間で研修していこうとしている。理念を具体的に実行していく為に、職員の“五感”を育てようとしている。 2．　全体的に見て･･･　このホームの特長は、2つのユニットの職員がどちらのユニットの利用者にも馴染みの関係をつくっている。どんな時でも職員は全員の利用者のケアが出来るよう人員配置を繰り返している。それと利用者の症状が重度化して出来ないとか、何か危険だからやらせないということで仕事を遠ざけるのでなく、職員が見届けをしっかりすることで、積極的にやらせていることに感心する。利用者本人にとってみれば大変嬉しい事である。

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	

記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。
記述回答	1．　自主評価について･･･　利用者や家族に対するサービス提供に関して、代表や職員が業務としている事に問題はない。現在のやっている業務の充実や改良を続けることによって、地域に対して有用なホームになることは他に模範となるだろう。 2．　全体的に見て･･･　代表者と施設長のコンビで新しいグループホームの運営とケアマネージメントの事業と職員育成のポリシーをしっかり持っているので、利用者は勿論であるが、家族や地域に対しても貢献したり、協力体制を作り上げることが着々と進んでいくだろう。運営推進会議の功績もあり、色々な方面との素晴らしい関係作りが構築できるだろう。